

## 第 25 回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会 議事概要

日 時：2022 年 3 月 23 日（水） 午後 2 時～午後 4 時

場 所：国土交通省近畿地方整備局会議室、グリーンルーム（あおぞらビル 3F）を zoom で繋いで開催

出席者：国土交通省近畿地方整備局道路部：計画調整課 平井義博課長、路政課 大野耕司課長  
他、国土交通省大阪国道事務所：事業対策官他、阪神高速道路株式会社：道路環境・景觀課課長他、原告団（計 10 人）、大阪連合会、弁護士、あおぞら財団

参加者数：約 30 人

---

### (1) 被害者の訴え（岡崎久女さん）

### (2) 国土交通省、阪神高速道路株式会社からの資料説明（資料 1 国道 43 号大型車交通量の推移、資料 2 大阪市西淀川区大気の状態、資料 3 大気常時観測局 PR 看板の設置スケジュール、資料 4 歌島橋交差点の植栽の補植について、資料 5 環境ロードプライシングの広報、資料 6 大阪市内 直轄国道における自転車通行空間の整備について、参考資料 カーボンニュートラルの取組（道路）、「暫定車種間比率」の終了について）

### (3) 原告からの提案（西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会資料）

### (4) 意見交換

#### ①被害の訴えを受けて

→話を改めて伺って、大変な思いをされていたことひとしと胸に感じた。和解条項に基づいた環境対策を進めてきた。環境は良くなったものの、不安が残るのは事実であるので、引き続きこれまでの対策を継続していく。

#### ②大気の改善について

- ・二酸化窒素の環境基準は下限値を守って、さらにそこから下げるということを以前に聞いたが、もう一度今の視点を教えていただきたい。

→前回と立場は変わっていない。観測値は 0.04～0.06ppm のゾーン内かそれ以下の現状の環境基準はクリアしているのは事実である。0.04ppm という目標値を道路管理者だけで約束すること自体は難しい。基準を達成したからやらないということではなくて、これまでの取り組みを継続して、環境改善をしていく努力を怠ることなくやっていく。

- ・NOx・PM 法について、自治体の申請に基づいて解除しようという方向が出ており、愛知県と三重県がその意向を表明している。今後、自治体からの要望によって、NOx・PM 法の規制解除の要件について 5 年後をめどに確定することになった。これからも大気汚染をなくす、二度と被害者がうまれないようにしたいという願いを受け止めてほしい。本省とも総行動で話し合いをする。我々が和解協定を結んだのは国土交通大臣であるため、そこを踏まえて、やっていただきたい。

#### ③環境ロードプライシングについて

- ・今回アンケートで「知らなかった」という事業所が 3 割ある、立て看板と横断幕の効果が高いということが明らかになった。どのくらいの車両が湾岸線に移るのか、推計も含めてやっていただきたい。

→これまでの取り組みをしっかりとやっていくのが一番効果があるだろうと思う。利用の可能性のある方へのアプローチを、広報を通してやっていく。

#### ④大型車交通量について

- ・大型車の交通量は残念ながら増えている。国道 43 号の大型車が減少し、分担率が低くなっているというのは、ロードプライシングで一定の部分が湾岸線のほうに乗り換えていると推察できる。地域全体や大気だけでなく CO2 の排出も含めて考えると、抜本的には大型車の交通量を減らさないといけない。近畿圏だけの問題ではないため、国交省全体の課題として、認識されるように頑張ってもらいたい。

- ・大型車を減らしてほしい。国道 2 号、43 号だけでなく、それぞれをつなぐ府道についても自治体と協力して取り組んでほしい。

#### ⑤自転車レーンについて

- ・自転車レーンの設計について説明してほしい。
  - 2 号線の全線に矢羽根の形水色の 3 角形を描くという設計であり、現在、西淀川警察署の交通課と協議中である。歌島橋交差点は交差する側が二股になっていたり、信号によって自転車と車両が交差することになる場合がある。交通安全の面から不安があり、今後、考えないといけないところである。予算と警察協議が終わった段階で、業者が整えば速やかにできるところからしていきたい。

#### ⑤その他

- ・大気常時観測局の PR 看板について、阪神高速は設置済、国交省の新佃公園前、歌島橋交差点、大和田交差点は次年度に設置予定。
- ・歌島橋の植栽についてサルスベリ 1 本と、シラカシ 2 本を 12 月 7 日に補植している。

(文責 谷内)